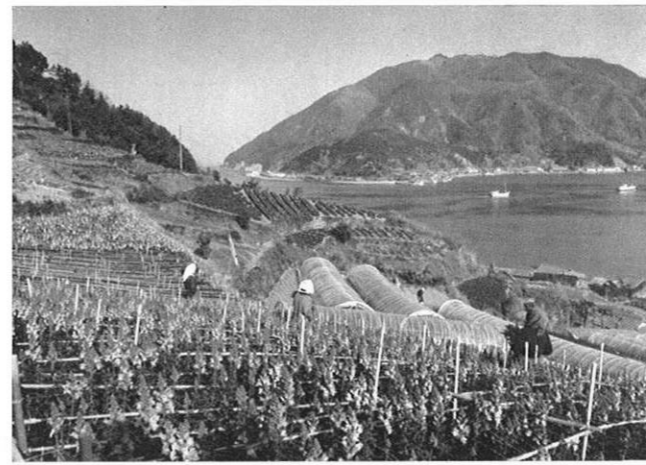


三角大矢野海辺県立自然公園

有明海に突き出した宇土半島と三角港から天草、大矢野島一帯で海を中心とした観光地。この一帯は気候が温暖なので早出しそ菜、花卉、みかんなどの栽培が盛んである。天草五橋の開通で県内外の観光客で賑わい、産業面でも大きく飛躍しようとしている。



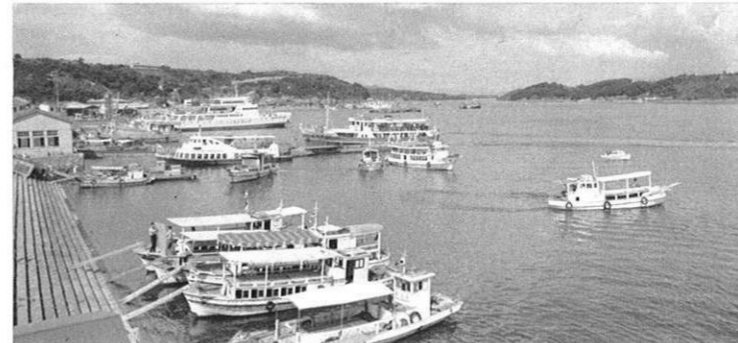
上・花卉栽培で南国ムードをつくる大矢野島



上・磯づりのつり場も多く、天狗たちをよろこばせている。



上・夏はいたるところ海水浴場で賑わう。
下・天草五橋は天草に新しい時代の情趣をそえた。



上・国際観光ルートの要衝として発展する三角港



△ここに人あり▽

若い遊覧船

□天草郡松島町
松本清光君
千代美さん

△左右に見えております黒いブイの様なものは天草のホープ真珠養殖ウキでございます。二、三年前までは孟宗竹で筏に組んで用いておりましたが、最近では合成化学の進歩で、ご覧のようにエタニック製の浮玉に変ったのでございます。船がゆるやかにカーブしたところで四号橋の前島橋を望むはじめた。千代美さんはチラッと船長室の清光君に目くばせしながら再びマイクを口を持っていく。……この前島橋の建設に使用さ

れましたセメントは、量に致しましてナント八万俵……というくんだりまでくと船内のあちこちで「すげーなア」と溜息まじりの喚声が湧く。八万俵が効いた。実はこの数字、かつて架橋工事に関係した父親の重光さんから仕入れた取っておきのネタなのだ。

やる気充分の姉と弟

総人数五、三六人乗り。二五馬力ジゼルエンジンの木造船「いなづま丸」は一昨年夏に進水した若い船だが、船長はもつと若い十八才の松本清光君である。この「いなづま丸」は清光さんと姉の千代美さん(二十才)が父親にねだつて二〇万円で作ったもので、初代船長が父親、二代目が千代美さん、そして彼は三代目船長というわけだ。三角の海技学院で磨いた操縦技術は自信に満ちている。千代美さ



★今日も白い甲板に秋の陽がまぶしい

んの役目はもっぱら観光ガイドで、ほかに事務長さんみないな仕事や、綱とりや誘導などで二人はいつも一緒である。かつての自家用船(二人乗)から現在の営業船に切り替えてから

青い海こそわが職場

夕映えの海に島影と橋のラインが一つのシルエットになって見え、マイクの声は一段とそれに情趣をそえる。若い二人は口を揃えていう。海は雄大で美しい。そんな時には千代美さんの声もひときわびえわたるのである。



★若い二人の職場はいつも楽しい

とについて語り合う。清光君は「人に使われるのがきらい」だという性格。それだけに仲間の中には根性もんで知られている。彼の観光事業への夢はひとえに観光あまくさの発展にかかっているようだ。つい最近、或るプロキヤメラマンが五橋撮影のために「いなづま丸」を一日借出したことがあった。撮影の仕事を手伝いながら清光君は、「鬼」になったキヤメラマンのネバリとフアイトに圧倒されてしまった。ひたすらに、被写体に喰い入る果敢な姿勢にいい知れぬ感動を覚えた。あの日の最後の仕事は、こんな夕焼けの海でした。帰り船は客もまばら。航跡が白くカーブして遠くに五号橋の灯が見えはじめた。